

（２）認知症施策についてのアンケート結果

1 使用した調査用紙

神奈川県認知症施策についてのアンケート調査

2 調査期間 令和 4（2022）年 9 月 1 日～令和 5（2023）年 1 月 13 日

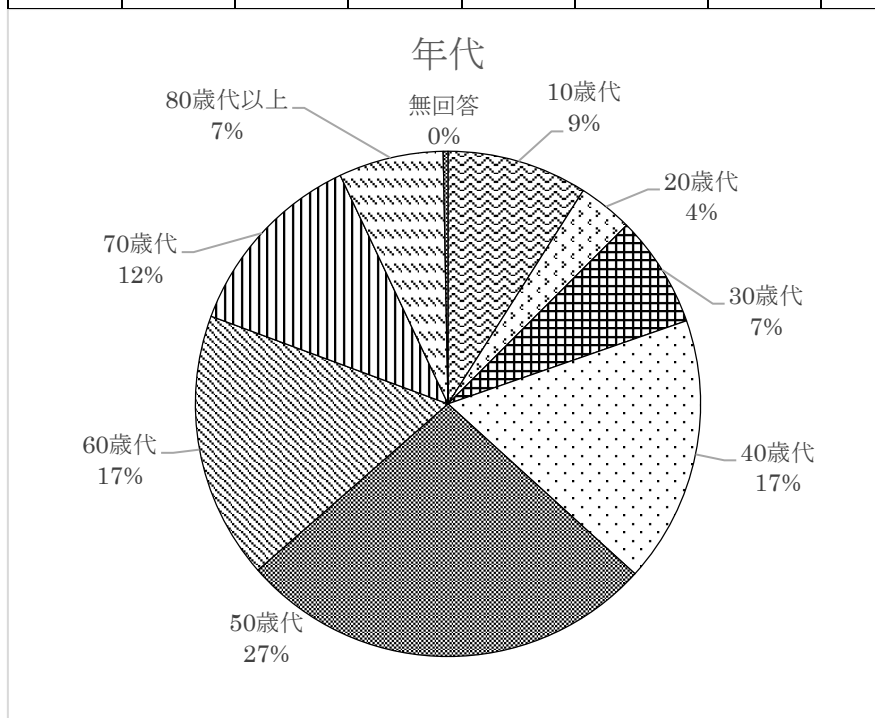
3 回収数 656

4 結果

1 アンケートにお答えのご本人についてお答えください

(1)年代

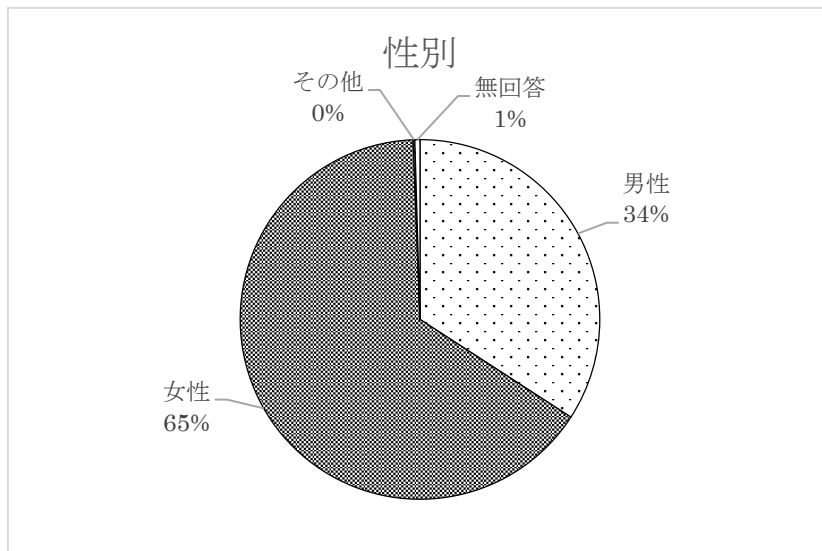
10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上	無回答
59	23	47	112	176	112	81	44	2



回答者は、20～50代で55%を占め、また10代～80代以上まで回答があった。

(2)性別

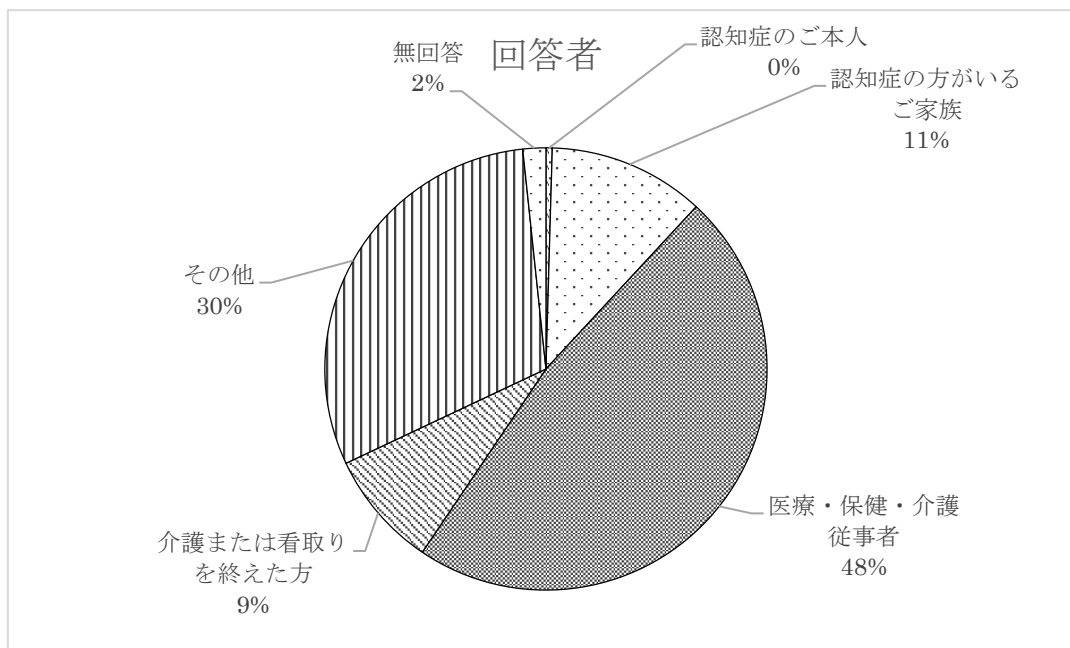
男性	女性	その他	無回答
224	428	1	3



回答者は、男性
34%、女性 65%
であった。

(3)回答者の状況をお答えください。(複数回答)

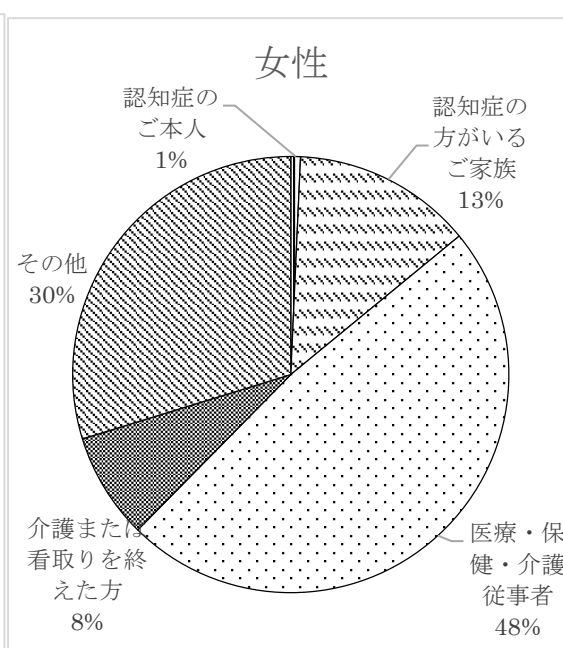
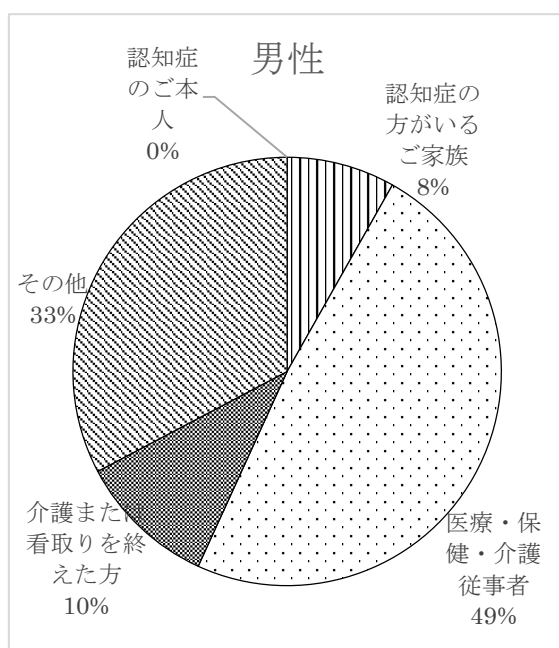
認知症のご本人	認知症の方が いるご家族	医療・保健・介 護従事者	介護または看取 りを終えた方	その他	無回答
3	75	312	56	199	11



男女・年代回答者の状況別

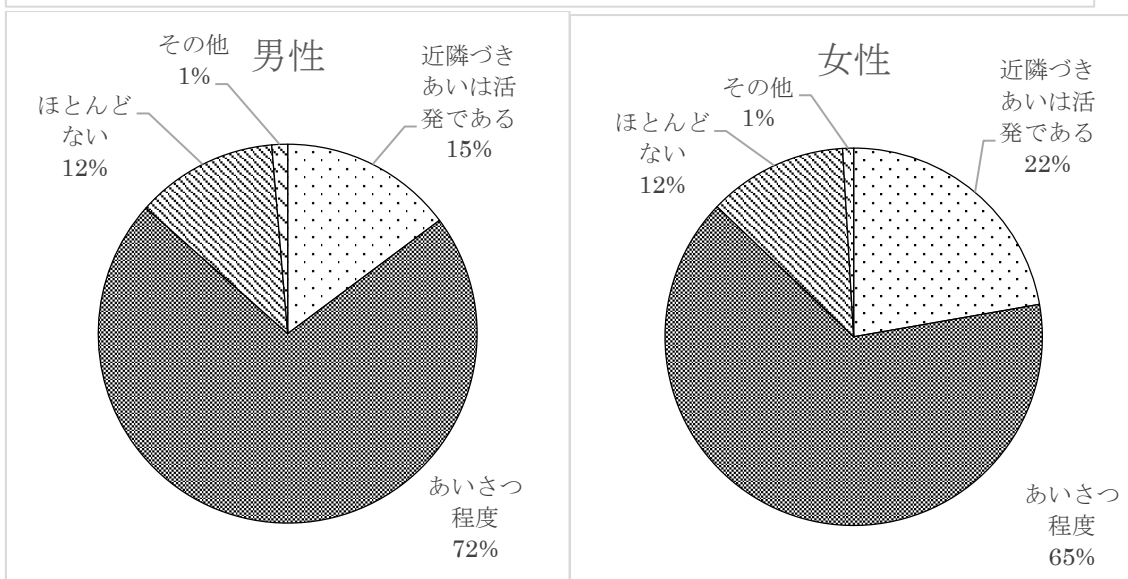
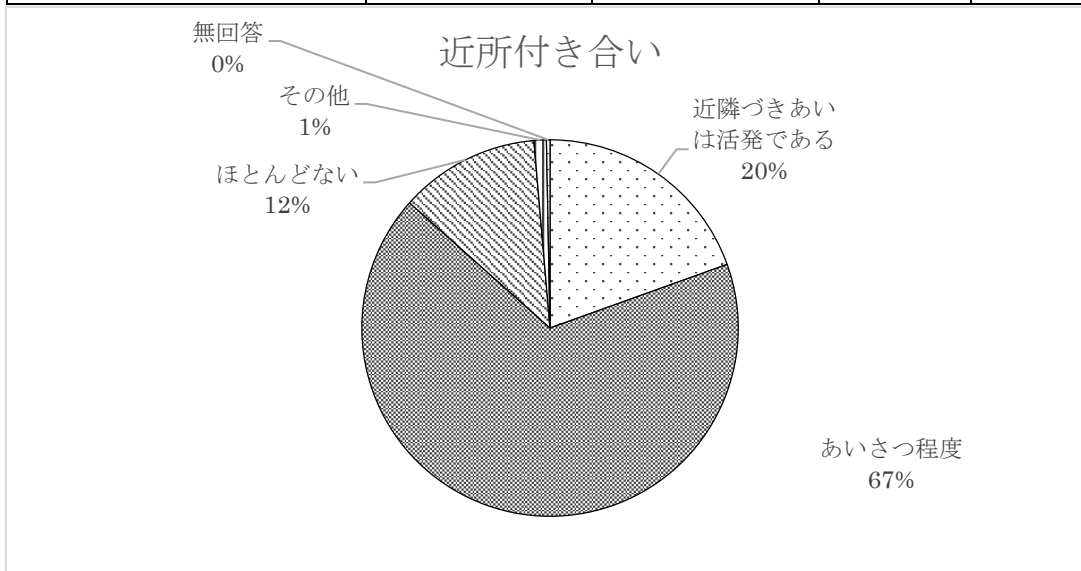
		認知症の ご本人	認知症の 方がいる ご家族	医療・保 健・介護従 事者	介護また は看取りを 終えた方	その他
男性	10代	0	0	0	0	17
	20代	0	1	1	0	2
	30代	0	1	12	1	6
	40代	0	0	36	1	5
	50代	0	7	42	4	13
	60代	0	3	13	6	12
	70代	0	2	3	7	13
	80代以上	0	4	0	4	4
		0	18	107	23	72
女性	10代	0	0	1	0	40
	20代	0	2	10	0	7
	30代	0	0	20	1	6
	40代	0	6	47	2	15
	50代	0	22	67	5	14
	60代	0	10	48	9	11
	70代	1	12	8	12	19
	80代以上	2	4	2	4	13
		3	56	203	33	125

家族約1割、医療・保健・介護従事者が約5割であった。介護または看取りを終えた方からの回答も約1割あった。本人からの回答が3名と少なかった。



(4) あなたの近隣づきあいはいかがですか

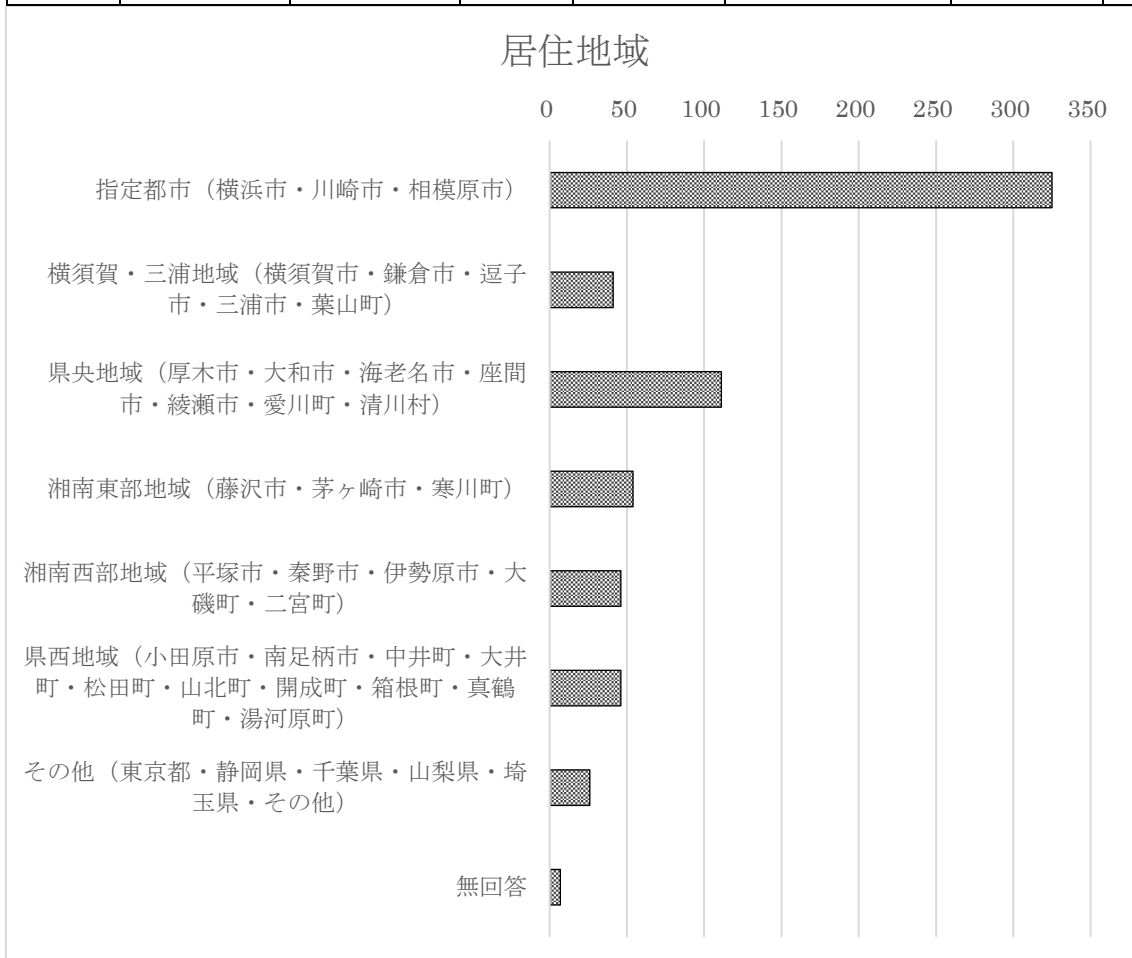
近隣づきあいは活発である	あいさつ程度	ほとんどない	その他	無回答
128	440	79	7	2



近所つきあいは約7割が挨拶程度であり、活発である2割を含めると、約9割が近所づきあいはあるが、一方「ほとんどない」が12%あった。

(5) お住まいの住所地域についてお答えください。

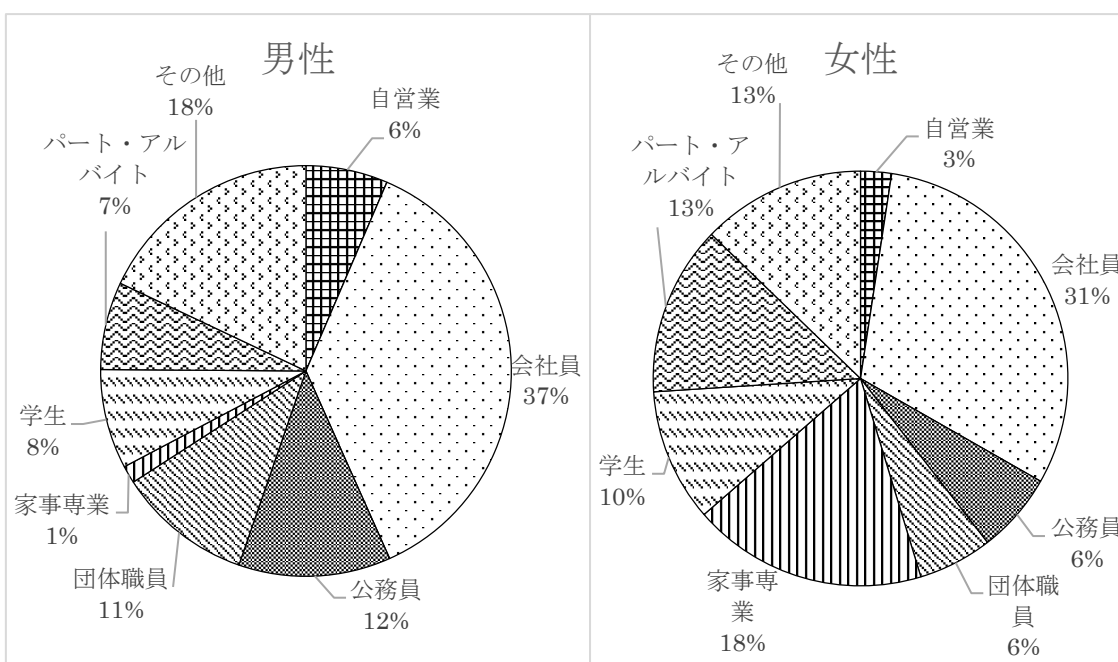
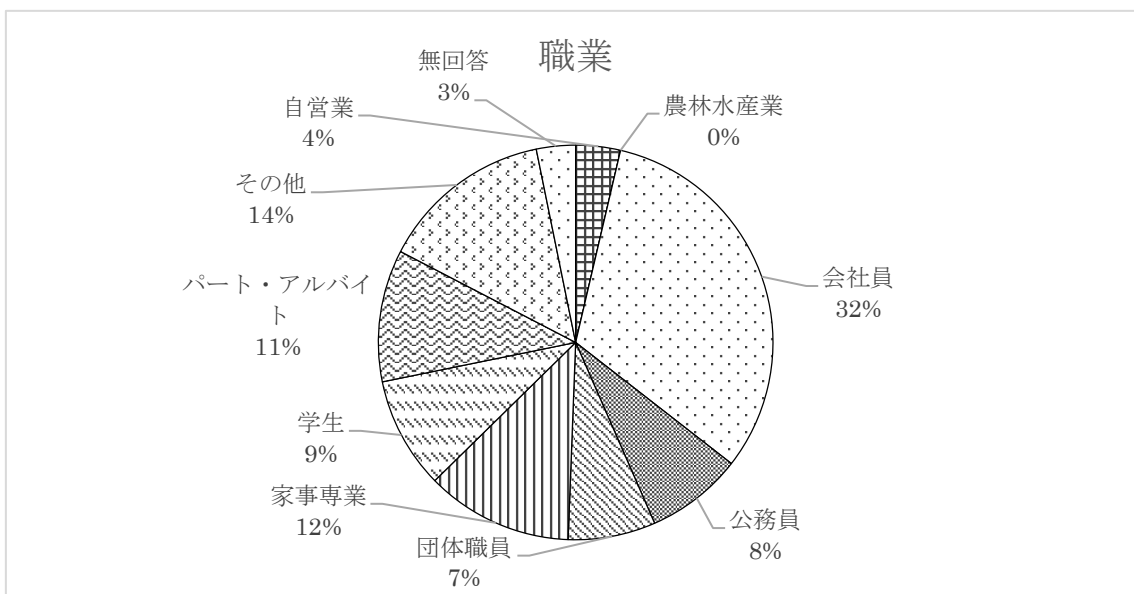
指定都市（横浜市・川崎市・相模原市）	横須賀・三浦地域（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）	県央地域（厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村）	湘南東部地域（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）	湘南西部地域（平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町）	県西地域（小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町）	その他（東京都・静岡県・千葉県・山梨県・埼玉県・その他）	無回答
325	41	111	54	46	46	26	7



政令指定都市が多いが、県内全エリアから回答を得た。

(6) あなたの職業についてお答えください。

自営業	農林水産業	会社員	公務員	団体職員	家事専業	学生	パート・アルバイト	その他	無回答
24	0	209	52	47	79	60	71	93	21

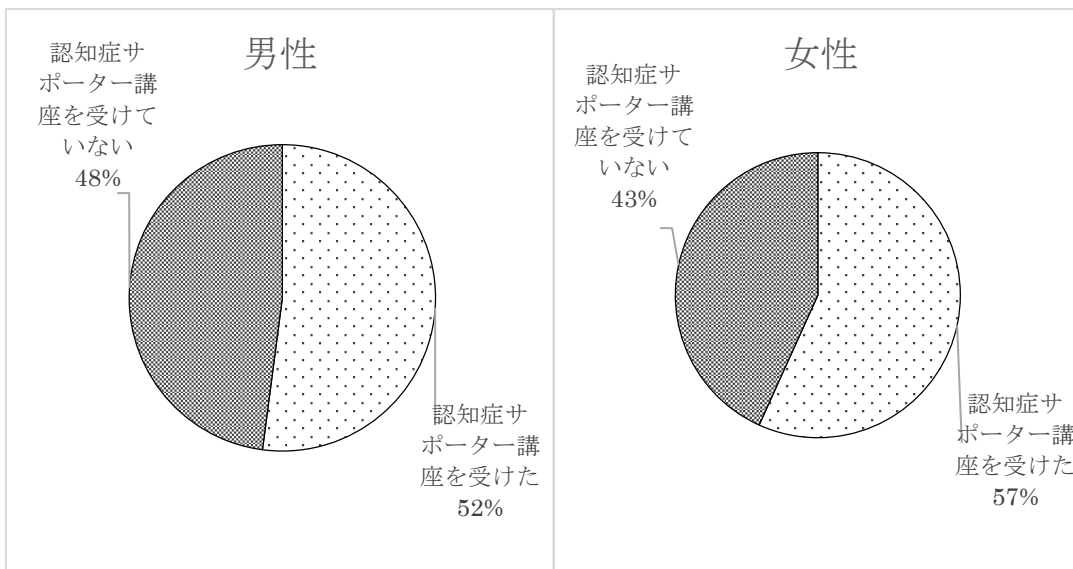
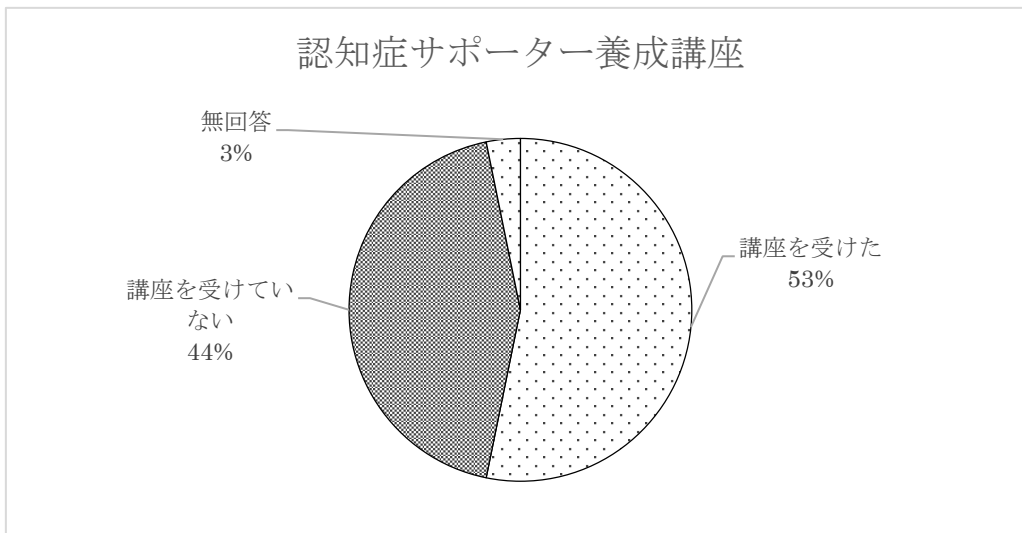


職業は、「会社員」が 32%で最多であり、次に「家事専業」が 12%、「パート・アルバイト」が 11%の順で多かった。

2 認知症についてお答えください

(1) あなたは、認知症サポーター(*1)の講座を受けたことがありますか。

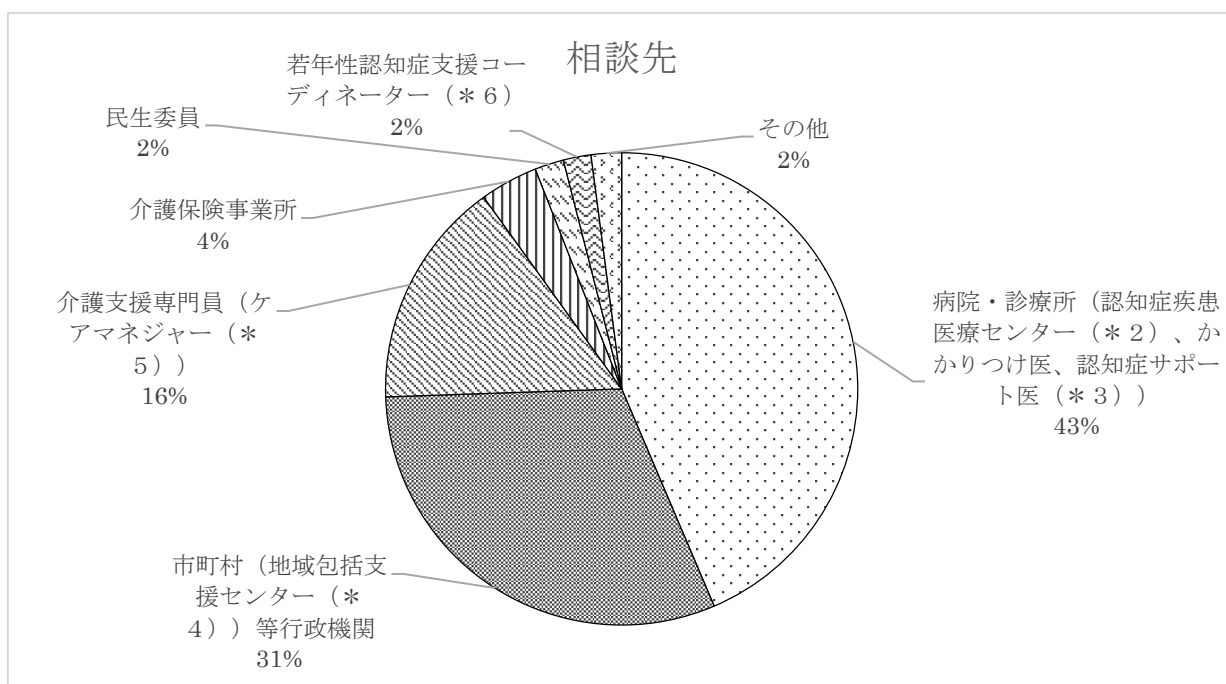
認知症サポーター講座を受けた	認知症サポーター講座を受けていない	無回答
349	286	21



認知症サポーター養成講座の受講の有の方が 53%だった。

(2) あなた自身、もしくは家族等に認知症の疑いがある時、どこへ相談しますか。または相談されましたか。(複数回答)

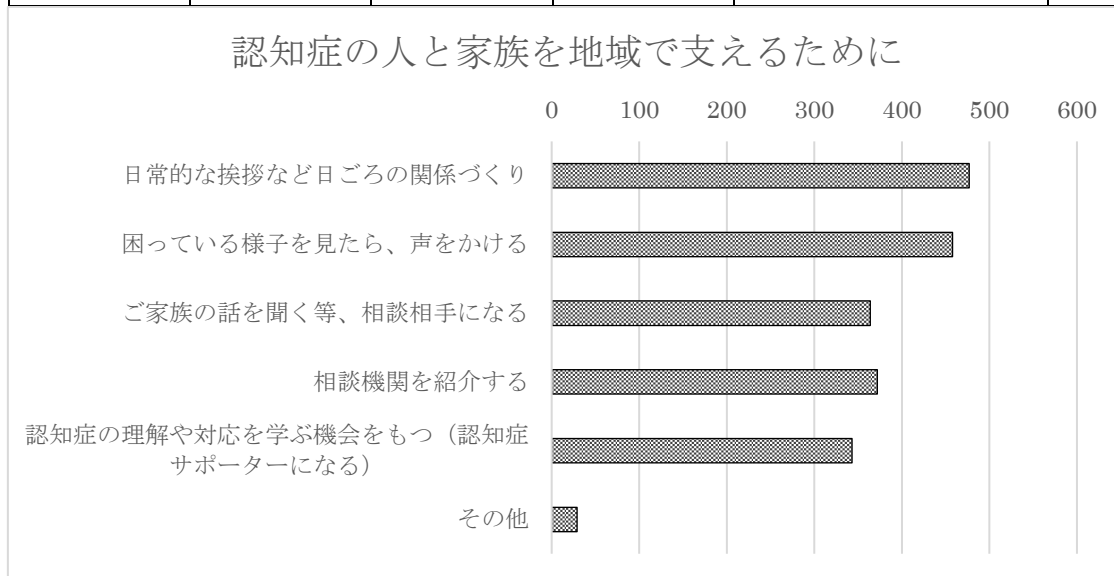
病院・診療所(認知症疾患医療センター(*2)、かかりつけ医、認知症サポート医(*3))	市町村(地域包括支援センター(*4))等行政機関	介護支援専門員(ケアマネジャー(*5))	介護保険事業所	民生委員	若年性認知症支援コーディネーター	その他
483	342	173	44	22	21	23



相談先として、病院・診療所を選んだものは全回答数のうち 43%と、市町村(地域包括支援センター)と答えたものは全回答数のうち 31%となった。

(3) 認知症の人と家族を地域で支えるためどんなことが必要だと思いますか。(複数回答)

日常的な挨拶など日ごろの関係づくり	困っている様子を見たら、声をかける	ご家族の話を聞く等、相談相手になる	相談機関を紹介する	認知症の理解や対応を学ぶ機会をもつ(認知症サポーターになる)	その他
477	458	364	372	343	29



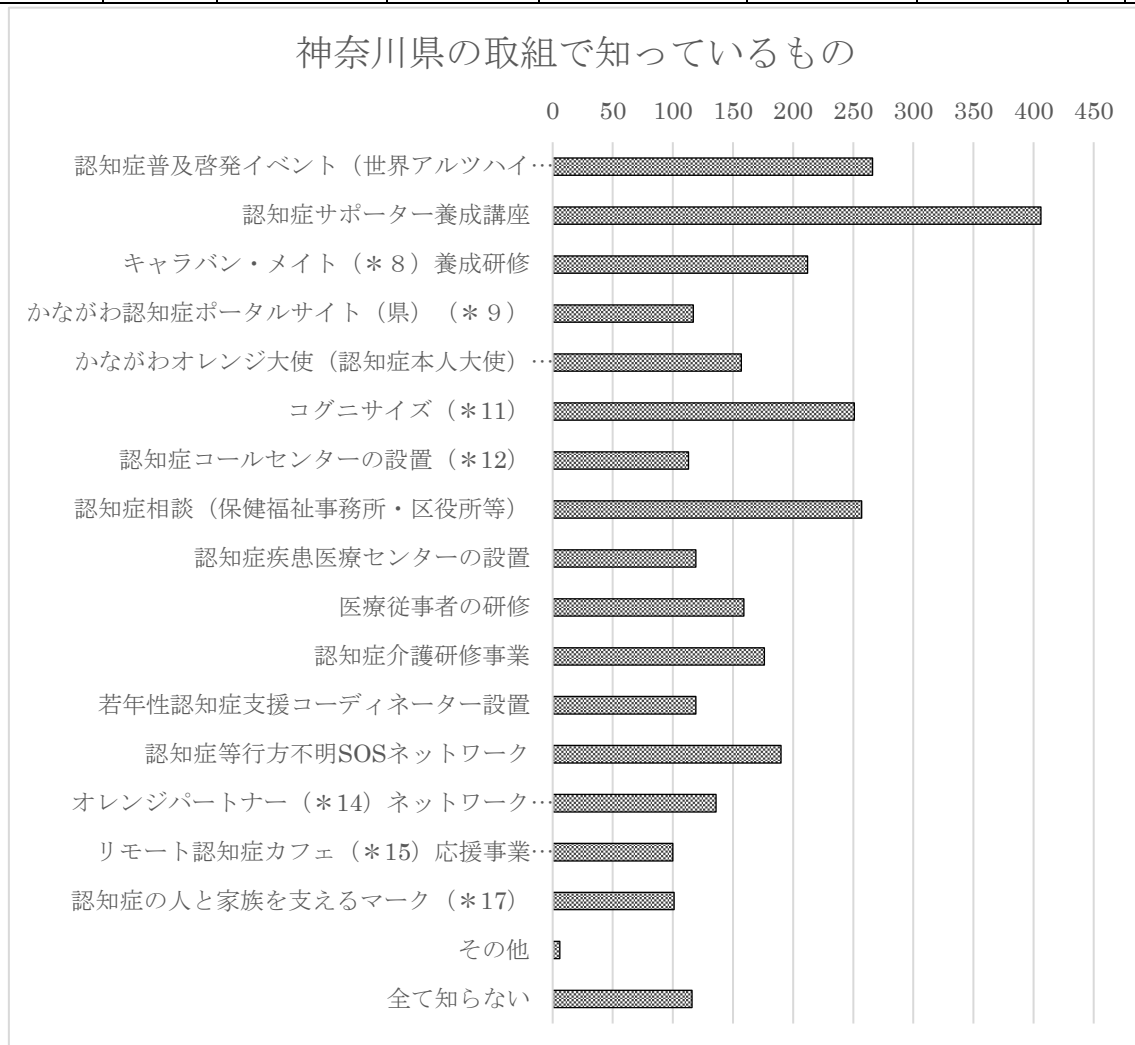
認知症の人と家族を支えるために、日常的には挨拶などの日頃の関係づくり最多であり全回答者の 73% を占めた。また困っている様子を見たら声をかける、ご家族の話を聞く等、相談相手になる、相談機関を紹介するも全回答者の半数を超えていた。

その他回答

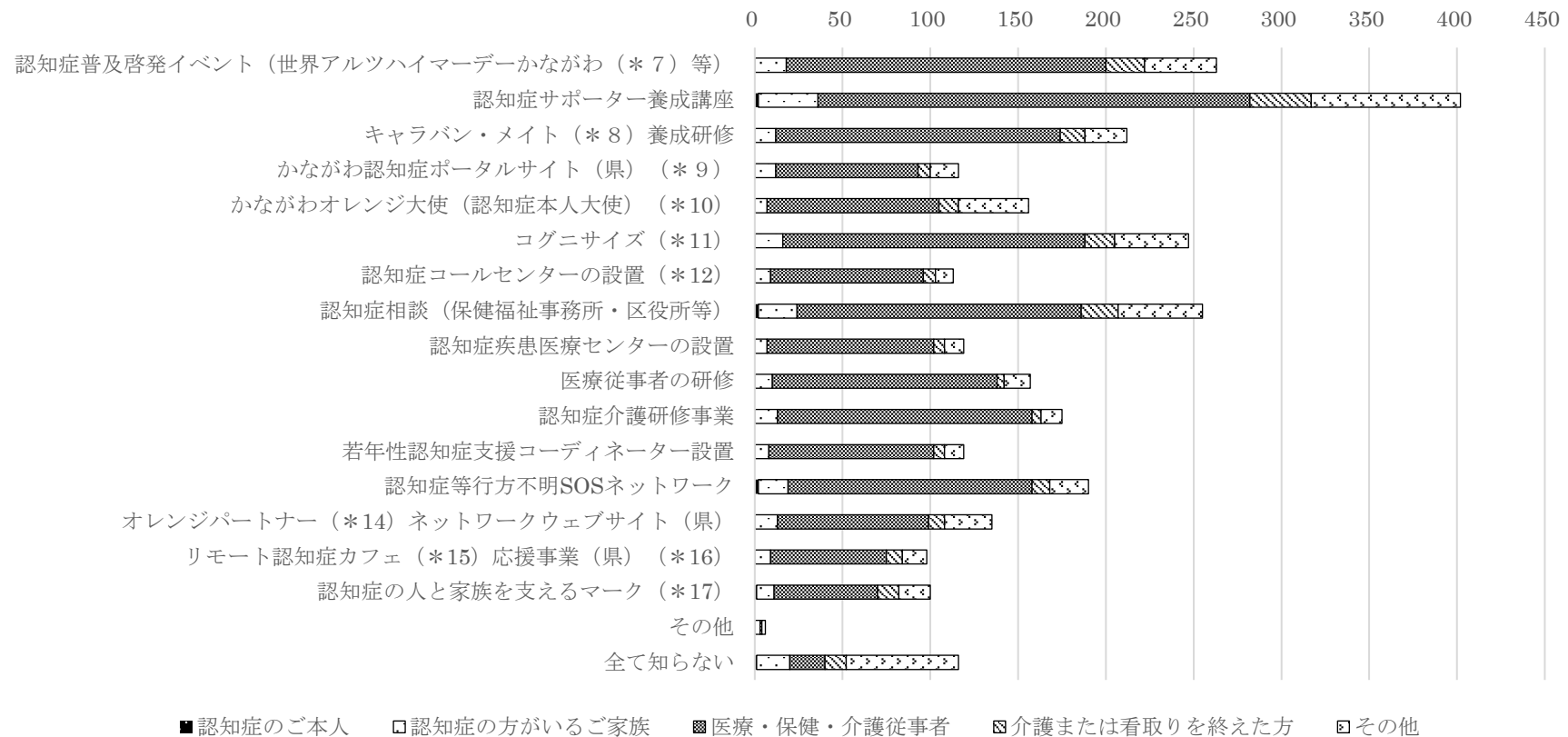
- 日々の見守りの実施（何らかの方法で無事を確認）
- 幼少時の教育機関から、認知症について学ぶ機会を作る
- 子どもの頃から認知症の方に接し、理解する機会を持つ
- 認知症を若い世代にいかに関知ってもらえる機会を作るか。
- 子供時代から、祖父母とか近くの老人と接しておく。特に肉親の老い方、接し方を学ぶ、長生きしない。井戸端会議で（知人友人）経験談を聞いて、ホッとする。
- 映画やドラマ等での啓発等
- 家族のつどいを主催している
- 介護者の会の存在を教える
- 家族の会の様な所に入る
- ご近所に立ち寄れる場所
- 気軽に相談できる環境づくり。
- つどいの場をつくる
- 自分の家庭のことしか考えない人が増えているので、コミュニティーは昔ながらの「隣近所」の再形成は困難だと思う。新たなコミュニティーを形成することや発想の転換が必要だと思う。IT も活用し、助け合いをポイント化するなど、新たな取り組みを考えなければならないと思う。
- 地域ぐるみで見守る体制を自治会や市町村等が積極的に PR する
- 地域での認知症の理解
- 見守っていますよという言葉
- 認知症カフェや認知症対応型デイサービスで本人の生きがいに繋がる活動
- 相談機関の周知
- 認知症は治らないので、予防のための食事や生活についての知識の普及啓発の方が大事
- みためで認知症とわからない。声をかけるのはむずかしい
- 認知症患者を直接サポートできる地域に根付く施設等を増やす。そのための賃金を上げる。
- 家族は家から出ることが少ない方も多いので社会資源利用方法の周知と利用方法の援助
- 相談に応えられる知識を持つ
- 地域の人の手助けには疑問があるし、知識のない人間に口を出されても困る

(4) 神奈川県(指定都市)では認知症施策として下記の取組を行っていますが、ご存知でしたか。

認知症の普及啓発イベント (世界アルツハイマーデー かながわ等)	認知症サポーター養成講座	キャラバン・メイト養成研修	かながわ認知症ポータルサイト (県)	かながわオレンジ大使(認知症本人大使)	コグニサイズ	認知症コールセンター設置	認知症相談(保健福祉事務所・区役所等)	認知症疾患医療センター設置
266	406	212	117	157	251	113	257	119
医療従事者の研修	認知症介護研修事業	若年性認知症支援コーディネーター設置	認知症等行方不明SOSネットワーク	オレンジパートナーネットワークウェブサイト(県)	リモート認知症カフェ応援事業(県)	認知症の人と家族を支えるマーク	その他	すべて知らない
159	176	119	190	136	100	101	6	116



神奈川県の実施で知っているもの

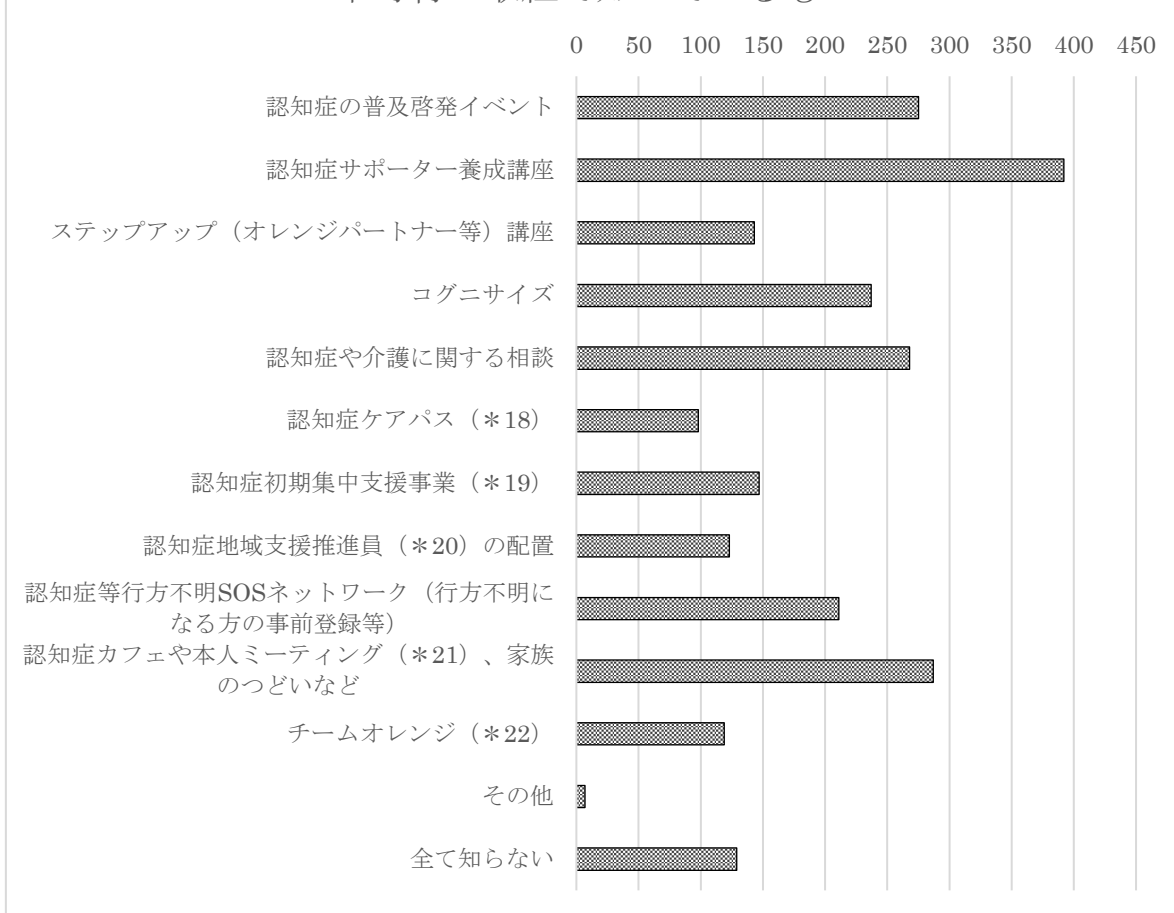


県の施策で最も知られているのは、認知症サポーター養成講座であり、その次に認知症普及イベント、認知症相談（保健福祉事務所・区役所等）であった。かながわ認知症ポータルサイト、認知症コールセンターの設置、認知症医療センターの設置、若年性認知症支援コーディネーター設置などが低い結果だった。

(5) 市町村で、認知症施策として右記の取組を行っていますが、ご存知でしたか。

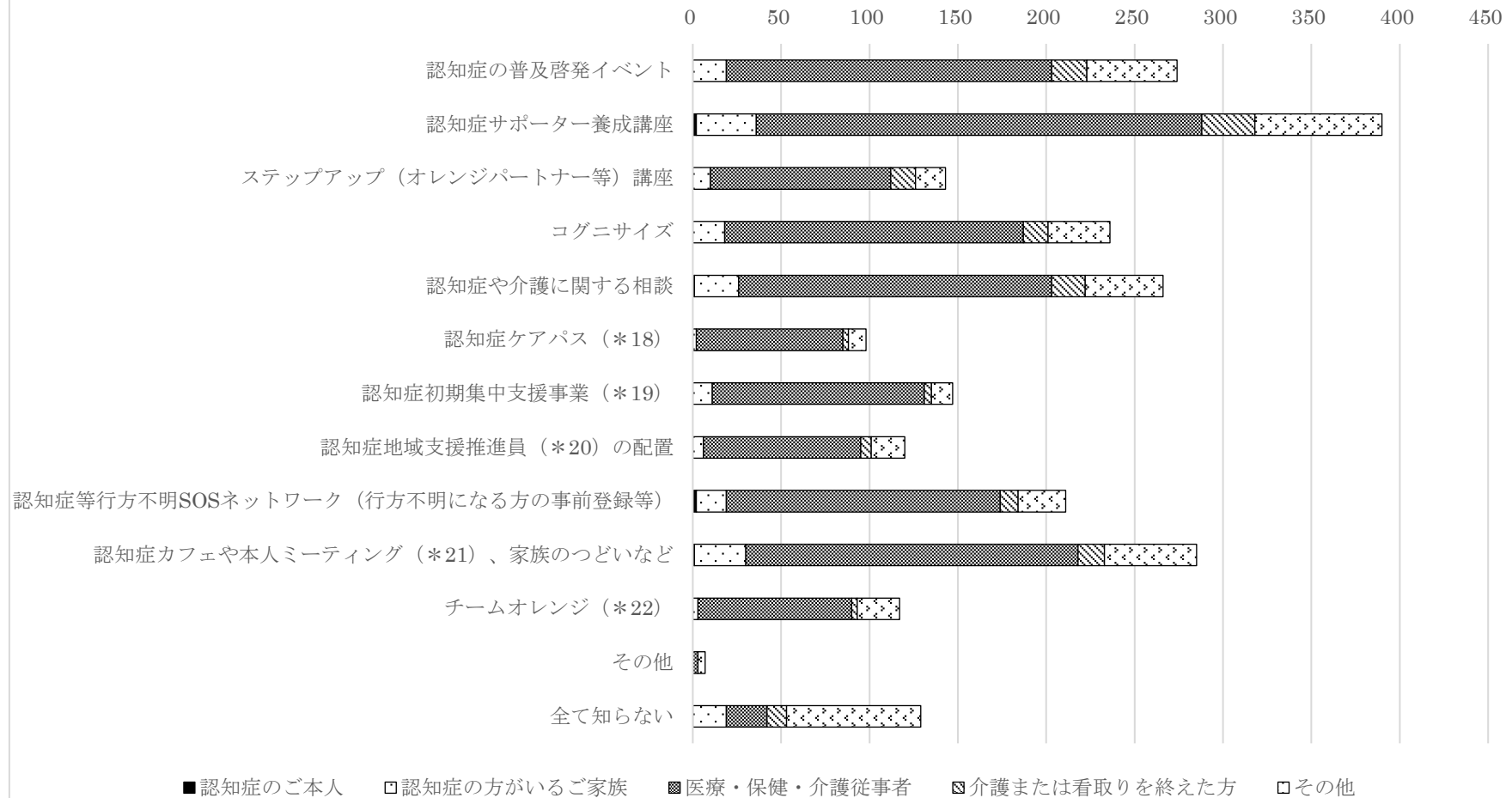
認知症の普及啓発イベント	認知症サポーター養成講座	ステップアップ(オレンジパートナー等)講座	コグニサイズ	認知症や介護に関する相談	認知症ケアパス	認知症初期集中支援事業	認知症地域支援推進員の配置	認知症行方不明SOSネットワーク(行方不明になる方の事前登録等)	認知症カフェや本人ミーティング、家族のつどいなど	チームオレンジ	その他	全て知らない
275	392	143	237	268	98	147	123	211	287	119	7	129

市町村の取組で知っているもの

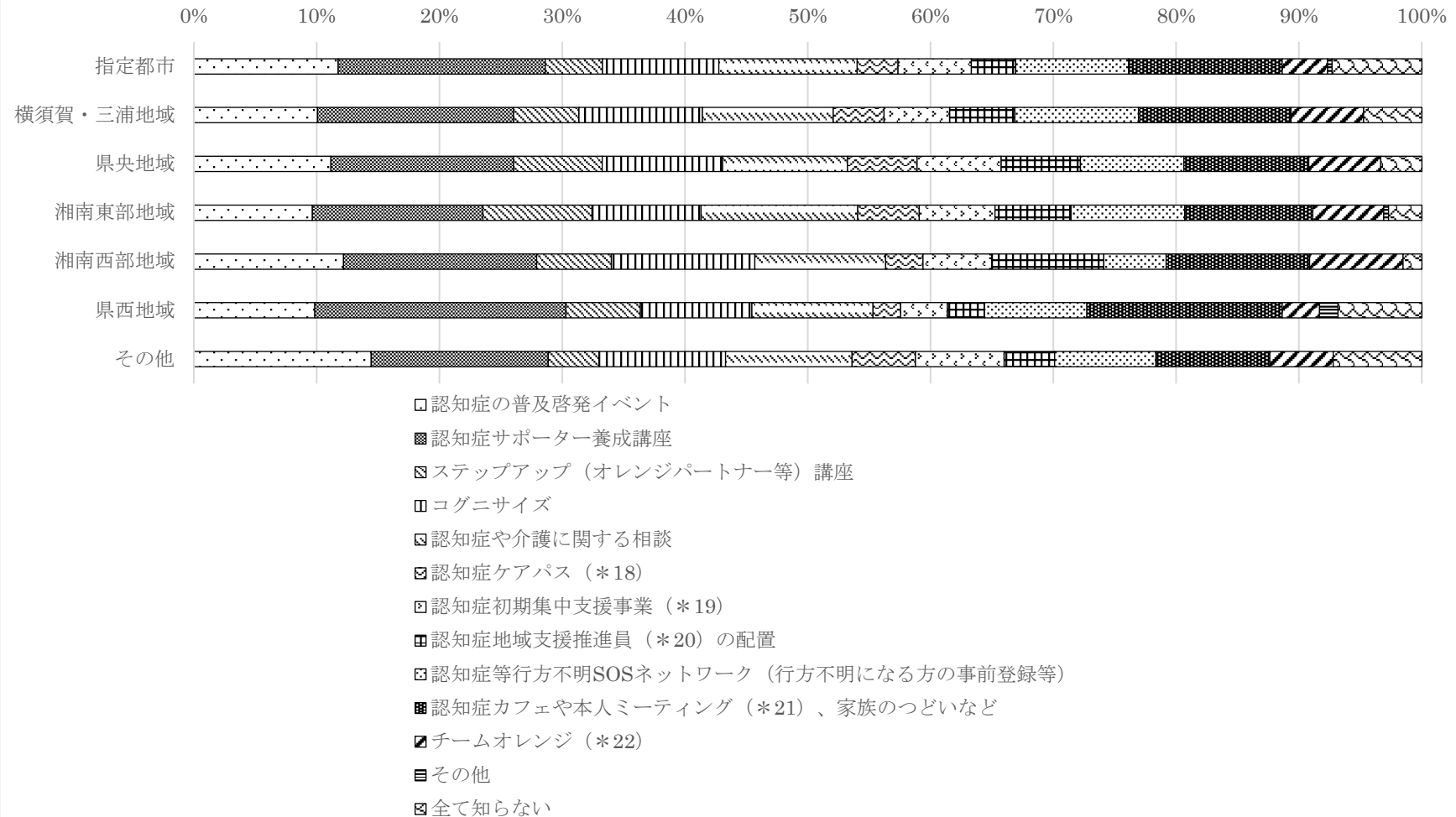


市町村の施策で知られているものは、認知症サポーター養成講座、認知症カフェや本人ミーティング、家族のつどいなどの順で多かった。一方、認知症ケアパス、認知症地域支援推進員の配置、認知症初期集中支援事業、チームオレンジの認知度は低かった。

市町村の取組で知っているもの（回答者の状況別）



市町村の取組で知っているもの（居住地域別）

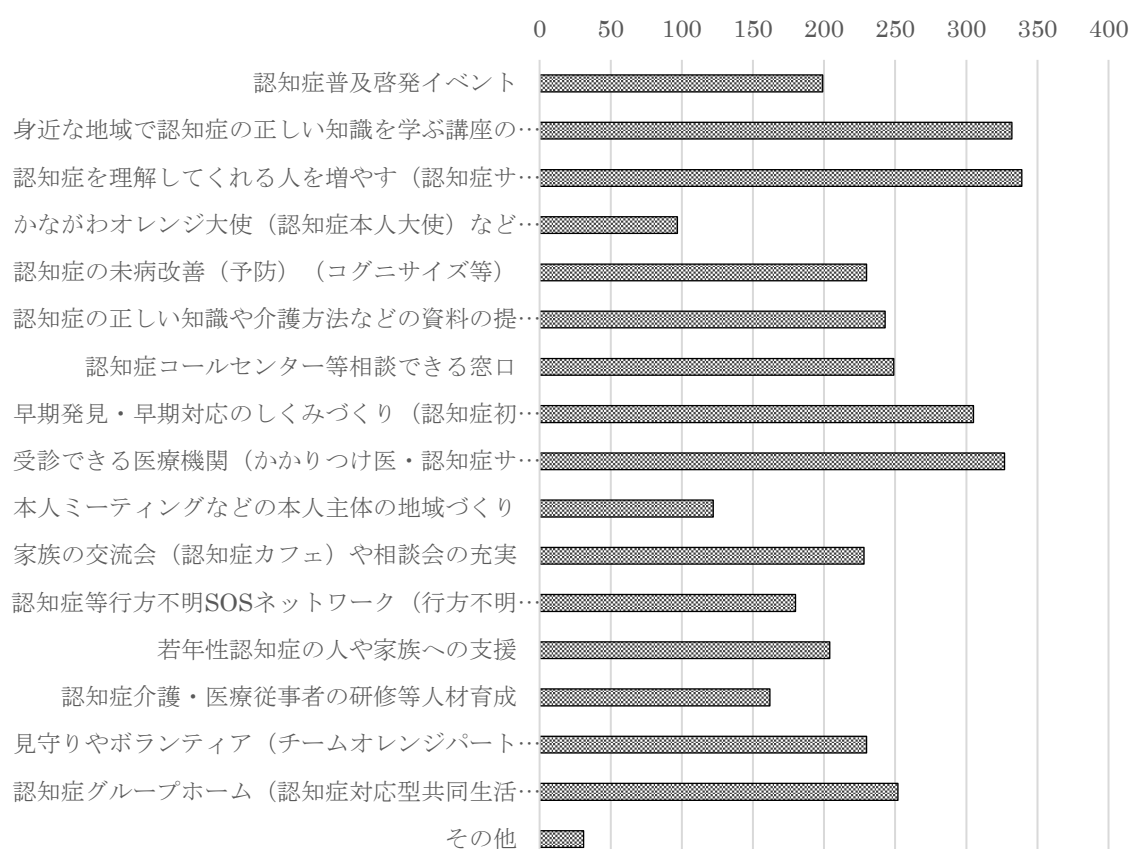


(6) 認知症施策を進めるうえで、今後充実してほしいことは何ですか。(複数回答)

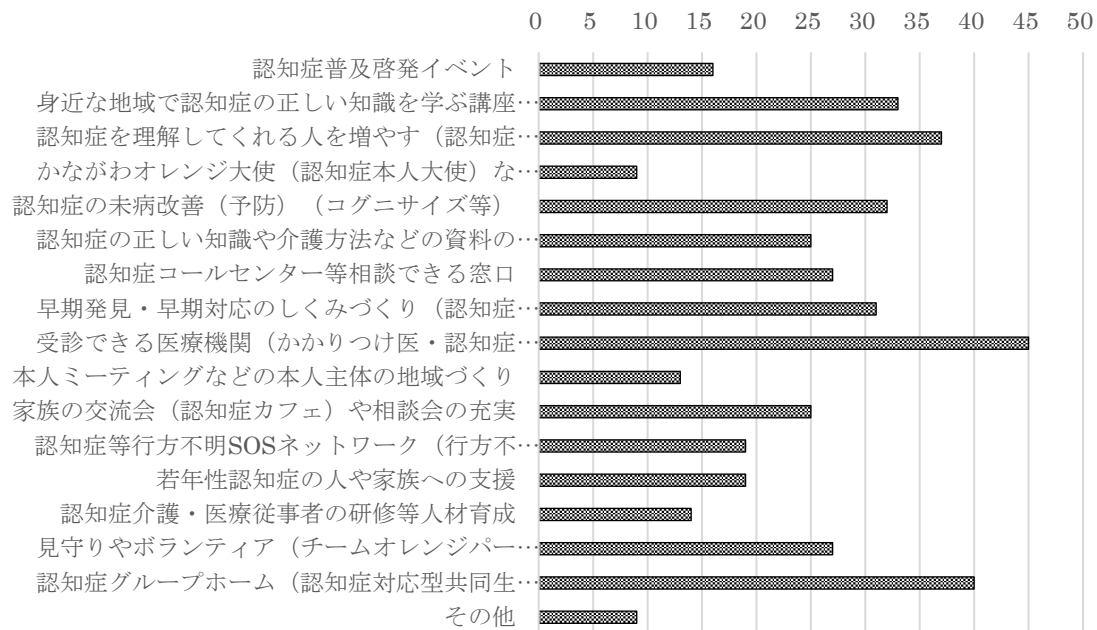
認知症普及啓発イベント	身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催	認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーターやステップアップ講座等）	かながわオレンジ大使（認知症本人大使）などからの本人発信（本人による普及啓発）支援	認知症の未病改善（予防）（コグニサイズ等）	認知症の正しい知識や介護方法などの資料の提供（認知症ケアパス等）	認知症コールセンター等相談できる窓口	早期発見・早期対応のしくみづくり（認知症初期集中支援チーム）
199	332	339	97	230	243	249	305

受診できる医療機関（かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等）の機能強化	本人ミーティングなどの本人主体の地域づくり	家族の交流会（認知症カフェ）や相談会の充実	認知症等行方不明SOSネットワーク（行方不明になる方の事前登録等）	若年性認知症の人や家族への支援	認知症介護・医療従事者の研修等人材育成	見守りやボランティア（チームオレンジパートナーネットワーク等）	認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）などの介護施設整備	その他
327	122	228	180	204	162	230	252	31

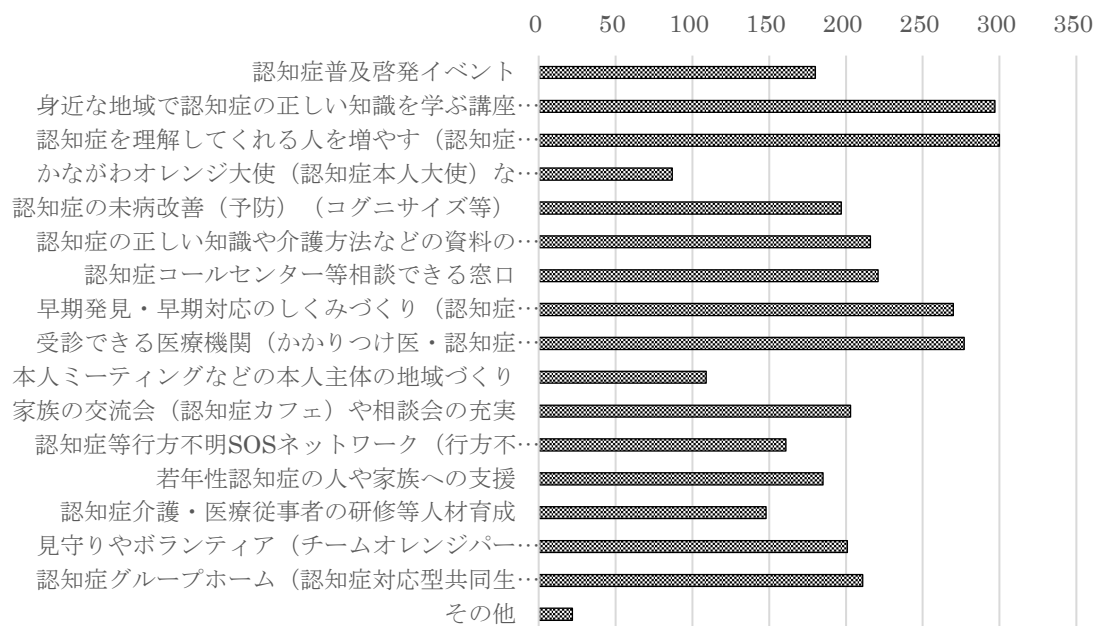
今後充実してほしい施策



今後充実してほしい施策（本人・家族計）



今後充実してほしい施策（本人・家族以外計）



今後充実してほしい施策は、認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーターやステッパップ講座等）、身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催、受診できる医療機関（かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等）の機能強化の順が多かった。本人・家族では受診できる医療機関の機能強化、認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）などの介護施設整備、認知症を理解してくれる人を増やす、の順が多かった。本人・家族以外では、認知症を理解してくれる人を増やす、身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催が多かった。